

ハノイで57人の司祭が叙階 ベトナム政府は聖座との外交関係修復をねらう。

* * * * *

先月ハノイのカテドラルの外で57人の司祭が叙階されたが、これはベトナム（現在も共産主義政府を自認する数少ない国）におけるカトリック信者の生活が少しずつ改善されている印として考えられる。

儀式は11月29日に何千人もの信者の参加の中で、福音宣教省の長官 Crescenio Sepe 枢機卿によって行われた。これが公の行事であったことも重大であるが、それにもましてこの国において召命が増加していることを明らかにした。そのうえ新司祭は全員が、司祭の不足がより深刻な旧北ベトナムの教区出身であったことも一目に値する

2004年にベトナム政府が出した指針は、本当の意味での宗教の自由を認めていないが、司祭叙階のための手続きに関しては改善が見られる。具体的には、司祭になるために前もって政府に許可を求める義務はなくなった。神学生の「定数」は相変わらず政府によって制限されているが、ここ数年政府が許可している6つの神学校に入学するのを許される学生の数は増えている。2004-2005年の学年では、神学生の総数は928人である。

ハノイ政府の代表団がこの6月にバチカンを訪れ、「ベトナムにおけるカトリック教会の活動の若干の面について」話し合った。代表団はまた聖ペトロと聖パウロの祝日にベネディクト16世がバチカンの大聖堂でささげたミサにも参加した。この訪問は、聖座とベトナムの間の関係正常化が「迅速に進む予感」を与えて終わった。議題に上ったテーマの一つが司教の任命（現在では政府による司教の承認は名目的なものになっているが）と新しい教区の新設であった。

それに先立つ数ヶ月、ベトナムのマスコミは初めて聖座との外交関係樹立の可能性について話した。（これは政府の明らかな同意がなければ公にされることがあり得ないニュースである）。ハノイの政府関係者にとっては、ローマとの関係は国際社会におけるベトナムの印象をよくするという効果もある。これは具体的には、政府が10年前から加入を目指しているが未だ成功していない、世界貿易機関への加入に有利であると判断されている。

現在ベトナムのカトリック信者は560万人で、8千万の全人口の7%となっている。この10月にローマで行われた司教会議において Phu Cuong の司教 Pierre Tran Dinh Tu 師は、信者の大多数がミサに行っていると断言した。「日曜日にミサにあずかる信者は80%にのぼり、15%は平日にもミサに行っています。クリスマスや復活祭などの大祝日には、その数字は95%に上ります。その理由をあえて探すなら、おそらく熱心にカテケシス（要理教育）が行われ、家庭教育がしっかりしているためであろうと思われます」と。